

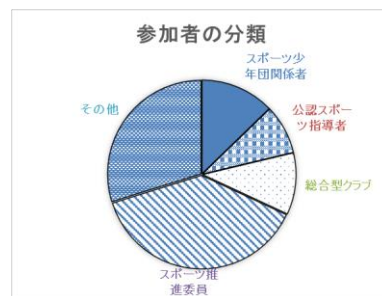
令和3年度 地域スポーツ指導者養成研修会 (ACP普及講習会)の報告

6月19日(土)、岩国市総合体育館を会場に、43人の参加者で、地域スポーツ指導者として身につけておきたいACPの理論や実技を学びました。

講師は、これまでと同様、東京学芸大学の佐藤准教授とJSPOスポーツ科学研究室の青野室長代理のお二人となりました。参加者アンケートの結果をお示ししながら、報告させていただきます。

参加者の所属

参加された人の半数近くは、岩国市スポーツ推進委員の皆様でした。今回は、体育施設などで実際に子どもたちの運動教室を受け持っている人の参加もあり、このACP普及講習会の参加者の広がりを感じることができました。



日 程

13:00

◇開会行事

◇理論 (ACPの趣旨・概要)

講 師 JSPO スポーツ科学研究室室長代理 青野博

14:20

◇実 技 (ACPの実技)

講 師 東京学芸大学 准教授 佐藤善人

16:00 閉会行事



△ 感染予防チェックの徹底

理 論



△ オンラインでの講義

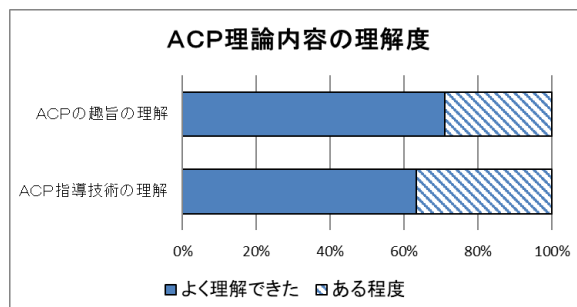
東京都に緊急事態宣言が発出されていることから、今回は、オンラインによる研修会としました。また、研修会場のネットワーク環境が十分ではなく、動画については、あらかじめ送っていただき、講義用のパソコンとは別に動画専用のパソコンを用意しました。準備の甲斐があって、クリアな映像を観ていただくことができました。

講義の冒頭で、青野先生によって、ACP(アクティブ・チャイルド・プログラム)は、いろいろな運動遊びを活用した指導法全体を指しており、単なる運動遊びではな

いと定義されました。この定義があるからこそ、「何のために、何を、どのように(どれだけ)」すれば、子どもの心と体が育っていくのかが目的化されているのです。

理論では、「子どもの発達特性」「基本的な動きの質の評価」「発達段階に応じた遊びの展開例」などについて動画を交えながら講義されました。「よい指導者の条件」については、10の観点を通して、具体的な指導者の姿を紹介されました。最後に、指導法に関する理論についてふれられ、楽しく遊ぶ中で、「成功体験」「自己決定」「他者との交流」といった子どもの成長に欠かせない行動や思考を育てていく指導者の役割を受講者と確認し合いながらの講義となりました。

参加者のアンケートから、右のグラフのように、半



数以上が「よく理解できた」と回答しており、子どもの発達に応じた指導者の在り方の重要性を理解し、日常活動に活かせるようなイメージをもって講義を拝聴されていました。

実技 ACP

佐藤先生の指示に従って、県内講師の廣川・和田が、受講者と一緒に ACP を展開しました。

今回の ACP は、「家庭でもできる遊び」「ソーシャルディスタンスでアレンジが効く遊び」という



△ 大きな動作でからだジャンケン

2つのテーマで構成され、特にアレンジの視点をもつことについての講義がありました。

紹介された主な遊びは、次のとおりです。

- 1) からだジャンケン・進化ジャンケン
- 2) 動物に変身
- 3) 新聞ジャンケン
- 4) 新聞紙に変身
- 5) ねことねずみ
- 6) 記憶オニ
- 7) 言うこと一緒・やること一緒
- 8) ミラードリブル
- 9) 縄遊び（大波小波）



△ 新聞紙に変身

遊びの行い方は、ACP のサイトでもたくさん紹介されています。アレンジについては、実践し、指導者同士で話し合ったり、子どもたちに問いかけたりすることで、どんどん広げられるものです。

記憶オニは、布テープに文字を書き、6人程度のグループでの対抗戦です。対戦相手同士が、お互い文字を読み取るというおにごっこです。ここでは、「一文字ずつ書いて、つなげると6文字の動物の名前になる」「一桁の異なる数字を読み取ってその合計を出す」「動物の名前を書いた布テープを読み取る」という3つのアレンジを紹介されました。体のどこに貼ってもよいという条件ですが、じっとしていたら相手に読まれてしまうので、常に動くということになります。自分の数字や文字を見られないように動きながら、相手の文字を読もうとすることで、かなりの運動量が確保されました。高齢の方もおられたのですが、チームワークで読み取った文字をつなげて発表した動物の名前が正解だった時には、大歓声でした。ミラードリブルは、相手のドリブルをまねる遊びですが、これもたくさんのアレンジができそうでした。



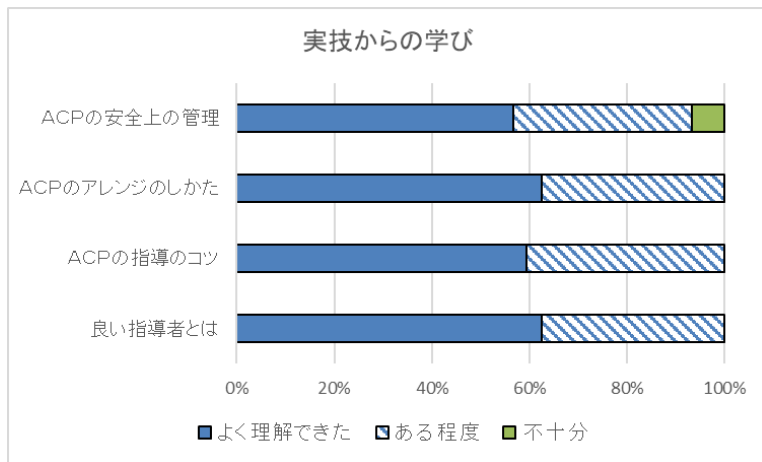
△ 記憶オニ（相手に見られないように）

次々に展開されていく遊びですが、参加者からは、「昔やった遊びもあり、なつかしく楽しく遊べた」「いろいろな人と交流もできて楽しかった」など、大人でも心理的な効果が見られたことも、この ACP 効果と言えそうです。

実技について、参加者の評価は、次ページの



△ 記憶オニ（数字を足すと・・・）



ようなグラフとなり、ほぼ理解できたという結果でした。

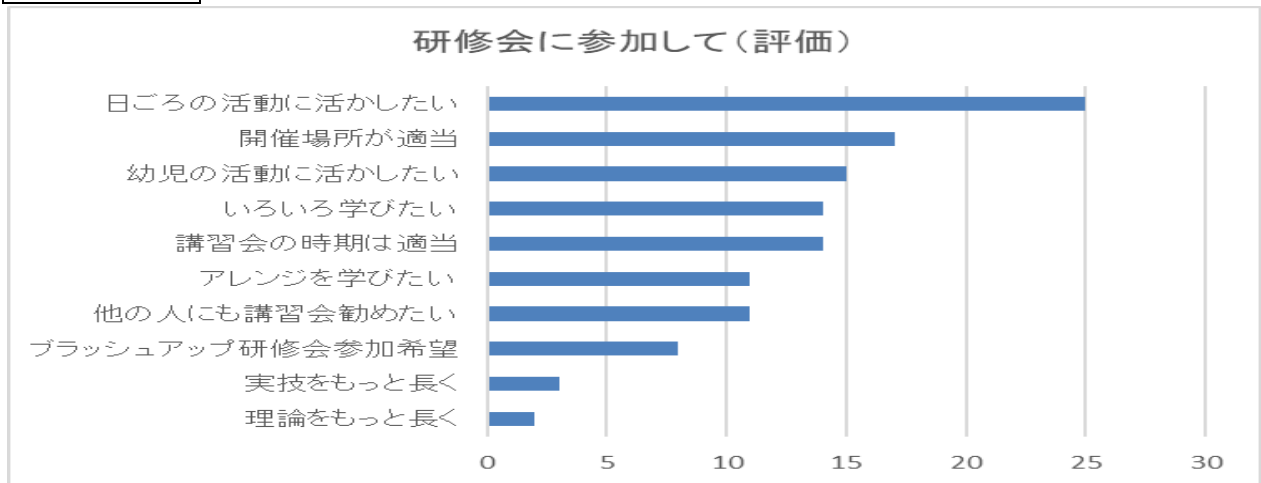
この他の感想は、次のような内容でした。

- チームの子どもたちとやってみたい。
- 練習の中でメニューにできそうなものがたくさんあった。アレンジしてみたい。
- 孫や子どもたちとやって楽しみたい。理解はできたが、体がついていかない。
- 剣道教室を市連盟で主催する

機会があれば参考にしたい。

- アレンジ次第で子どもも大人も楽しめる。親子でのイベントを実施してみたい。
- コロナ禍の中、いかにして実行するか、何をどうやったらできるかのヒントとなった。
- コロナがおちついたら、ふれあいのある ACP をやってみたい。
- 公認スポーツ指導者の更新対象にしてほしい。
- 複数回数を受講することでわかりやすくなる。
- スポーツ推進委員も ACP を学んで子どもたちの指導に当たってほしい。

研修会を終えて



参加者アンケートによると、これまでのアンケート結果と同様に、「日ごろの活動で活かしたい」という回答が多く出されました。また、「もっと学びたい」「ACP ブラッシュアップ研修会」にも参加したいという希望者が例年になく多かったことが特徴的でした。久しぶりに、本県の東側での ACP 普及講習会となり、岩国地域では初めての講習会となりました。

ふりかえり

コロナ禍の中、昨年度は中止した講習会をオンラインで開催することができました。多くの岩国市スポーツ推進委員の皆様が参加され、楽しそうに実技を学ばれていました。スポーツや運動遊びなどは、より多くの人とかかわることで、楽しさも倍増します。歓声上がることで、通常ではない力が出てくるものですが、それは子どもに限ったことではないようです。

日ごろ、子どもたちの運動にかかわっておられるスポーツ少年団以外の指導者の参加もありましたので、いろいろな立場からジュニアスポーツについてのお考えを聴き合う時間も必要であったと感じました。次回、ACP ブラッシュアップ研修会では、参加者のニーズに応えられるように、日々の活動を参加者自身が見つめ直せるような研修会にしたいと思いました。

(文責：山口県体育協会生涯スポーツグループ)